

水辺を活かした MICE 施設の計画 インバウンドブームを受けた新たな国際ビジネス競争拠点の提案

Planning of MICE facilities making use of waterside

Proposal of a new international business competition base that received an inbound boom

佐藤信治¹, ○重田秀之²

Shinji Sato¹, *Hideyuki Shigeta²

Japan relaxed visa issuance requirements that took place in and after 2010, the number of foreign visitors to Japan increased drastically, and an unprecedented inbound boom came. Currently, attention often tends to attract visitors to foreign countries who visit mainly by sightseeing, but in order to achieve government goals, it is essential to increase the number of foreign visitors to Japan who visit in business. Meanwhile, "MICE" is gradually getting attention in recent years. Overseas, especially countries in the Asian region, are focusing on MICE, and the number of holdings is increasing year by year. On the other hand, the number of events held in Japan has remained generally unchanged in the last 20 years, and the share of our country in Asia has been declining year by year. Besides, it is behind the developed countries and Asian countries, both hardware aspects of facilities and software such as planning and service. However, in Japan, which aims to become a science and technology nation, MICE is indispensable for future growth strategies in the global society and needs to be developed rapidly.

1. はじめに

我が国は、2010 年以降に行われた相次ぐ訪日ビザ発給要件の緩和により、訪日外国人が大幅に増加し、空前のインバウンドブームが到来した。その勢いは止まらず、政府は 2030 年までに訪日外国人旅行者数 6000 万人、経済波及効果 15 兆円の目標を掲げている^{*1}。現在は主に観光で訪れる訪日外国人に注目が集まりがちだが、政府目標を達成するためには、ビジネスで訪れる訪日外国人の増加が必要不可欠である。そんな中、近年徐々に注目されつつあるのが「MICE」である。MICE とは M : Meeting, I : Incentive, C : Convention, E : Exhibition, の頭文字の総称である。MICE の開催は、会議開催、宿泊、飲食、その他を通じての開催地域、さらにその周辺地域に対して大きな経済波及効果とを及ぼす^{*2}。海外、特にアジア地域の各国は MICE に力を投入しており、開催数が年々増加している(Figure.1)^{*3}。一方、我が国においては開催数は直近 20 年間で概ね横ばいであり、アジアにおける我が国のシェアは年々減少しており、施設等のハード面、企画・サービス等のソフト面ともに、先進国やアジア諸国に立ち遅れている^{*4}。しかし、科学技術立国を目指している我が国では、MICE 誘致は今後のグローバル社会における成長戦略に必須な存在であり、迅速な整備が必要である^{*5}。計画地は、羽田空港から東京モノレールによって直結している浜松町地区を選定し、会議・展示機能を中心に、周辺の街、水辺空間を一体とした複合型 MICE 施設の計画を行う。

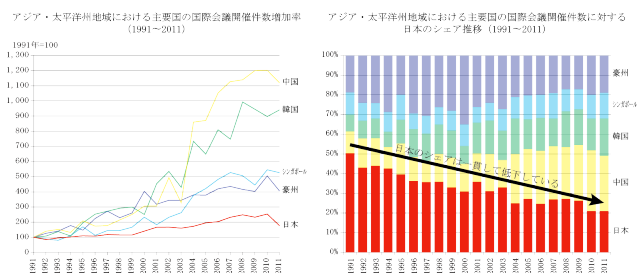


Figure.1 Number of MICE held in Asia

2. 計画背景

2.1. MICE の意義

(1) 高い経済効果

MICE 開催を通じた主催者、参加者等の消費支出は、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出す。例えば、米国の場合、付加価値ベースで市場規模を比較すると自動車産業よりも大きな位置を占めている^{*3}。

(2) ビジネス機会やイノベーションの創出

MICE 開催は、ビジネスや研究分野の海外参加者と我が国の参加者の人的ネットワークの形成や知識・情報の共有に大きな効果をもたらす。これらを通じて、新たなビジネス機会を生み出し、科学技術の発展・イノベーションの創出に大きく資する^{*3}。

(3) 都市の競争力・ブランド力の向上

MICE を通じた人や情報の交流・流通、ネットワークの構築の容易さなどは、都市の競争力・ブランド力の向上に寄与する^{*3}。

2.2. MICE 市場の動向 国際会議開催トレンド

平成 25 年に観光庁が ICCA (国際会議協会), IAPDCO

1 : 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST. , Nihon-U.

2 : 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST. , Nihon-U.

(国際 PCO 協会), 海外 PCO (会議運営専門外社), 国際会議誘致コンサルタントに対してヒヤリング調査を行った。それによると, 世界における日本の MICE 市場の立ち位置は, アジア業界において, 1990 年代には圧倒的な存在感を示していたが, 現在はシンガポールや韓国などのライバルが躍進を遂げ日本の独占市場ではなくなった。しかし, アジアはヨーロッパやアメリカに比べて学会, 企業ミーティング, の開催件数の伸びは顕著であり, イベントに関してもこれからアジア地が伸びていくと考えられている。日本は MICE 開催地としてのイメージの回復させることが何よりも重要であり, そのためにも施設整備や市場の整備を早急に進めていくべきである^{*3}。

3. 基本計画

3.1. MICE 施設の複合化・大規模化

近年, ①国際会議場と展示場の一体整備, ②展示場規模の大型化, ③アフターコンベンション機能を含めた複合施設化がグローバルスタンダードとなりつつあり, アジア競合国は, こうしたニーズを取り込んだ施設整備を推進している一方, 我が国は立ち遅れている。我が国の MICE 施設の課題は, ①会議場, 展示場, 宿泊施設からなる一体的 MICE の不足, ②会議施設の展示規模の不足, ③稼働率が高く予約が取りづらい首都圏 MICE 施設, ④大規模会議場, 多数の小規模会議室を有する施設の不足である。本提案ではこれらのごとを勘案した施設づくりが求められる^{*3}。

3.2. MICE 施設の差別化

上記の施設整備が必須であるが, より非価格的要素で MICE 誘致を行うためには, 差別化が必要となる。我が国では, 文化・歴史施設, 美術館, 博物館施設, ポップカルチャー等のユニークアベニューの活用や, 先端技術, 省エネルギーや海洋資源, 和食, 自然環境といった特徴・得意分野を積極的に押し出すことが必要となる^{*5}。

4. 敷地選定

敷地の選定は, 観光庁が実施した「会議開催地決定要因」ヒヤリング調査^{*3} と, 日本独自の特徴を最大限に発揮できる立地を考慮して, 以下の項目を設定した。

4.1. 航空サービスの利便性

PCO 事業者が国際会議を主催するに当たり, 最も重視する項目であり, アクセスの良さが施設稼働率に直結する重要な項目である。

4.2. 出席者の交通の容易性

MICE の参加者数を左右する最も重要な要素である。

4.3. 魅力的な文化・歴史・博物館

特に訪日外国人参加者が長期滞在するに当たり, 観光施設が必要となる。日本的要素の強いものが, 施設周辺に立地していると良い。

4.4. 水辺に隣接したエリア

我が国が得意とする省エネルギー関連, 海洋資源関連の MICE を開催に付加する要素である。また, 湾岸方面からの水上交通の充実を図る。アフターコンベンションや余暇空間を創出するための空間でもある。

4.5. 国家戦略特区・都市再生緊急整備地域指定区域

再開発に当たり, 規制緩和がなされている地域を選定する。また, 訪日外国人にとっても税制面でのメリットや, 公共交通機関の 24 時間営業等のメリットが生まれる可能性がある。

以上の項目を考慮し, 本提案では東京都港区芝浦一丁目北地区を, 計画敷地として設定した。(Figure.2)

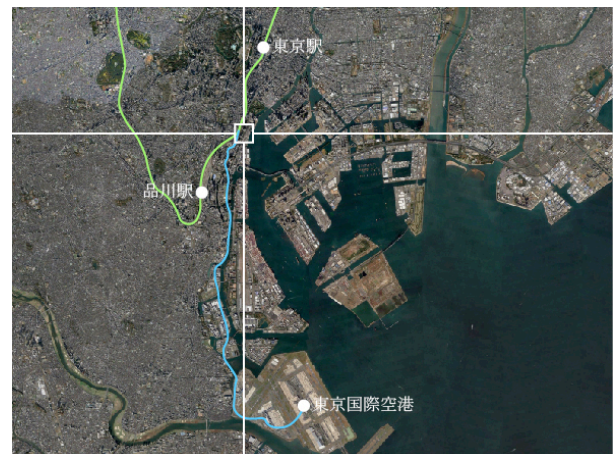


Figure.2 Planning site

5. 建築計画

MICE 施設は会議施設と展示施設の 2 つが主な機能となるが, 近年の施設の大型化, 複合化を鑑みるとさらに, ①宿泊施設, ②飲食・ケータリング施設, ③レストラン・カフェ施設, ④ユニークアベニュー施設, 等の整備が必要となる。加えて, 水辺のアメニティや水上交通などの要素を盛り込むことによって, 競合国との差別化を図る。

6. 参考文献

- [1]国土交通省観光庁:「平成 28 年版観光白書」
- [2]経済産業省:「平成 26 年度展示会産業活性化にむけた国内外大規模展示会場運営実態に係る調査報告書」
- [3]国土交通省観光庁:「MICE 国際競争力強化委員会最終取りまとめ 報告書」
- [4]内閣官房:「都市再生の推進に係る有識者ボード MICE 施設機能向上ワーキンググループ」
- [5]萩原誠司:「コンベンションビジネス」, ダイヤモンド社